

新しい教科書、どう使う？ — 低学年編 —

この先生に伺いました!



川崎市立三田小学校
吉村 あかね 先生
Rikane Yoshimura

参考に、いろいろなジャンルの本を読んで、読書の幅を広げていきたいと思っています。

「あつまってはなそう」では、うまく話せない子にどんな言葉をかければいいのか考えさせることも大切ですね。「きみは、どう?」「うん」といったやりとりなども、コミュニケーションとして幅広く捉えていきたいです。

「えんぴつとなかよし」の唱え歌は、書くたびに思い出したいのですが、①クラス全員で、②一人小さな声で、③頭の中で、というように、少しずつ段階を踏みながら、二年生にむけて身につけていきたいと思っています。

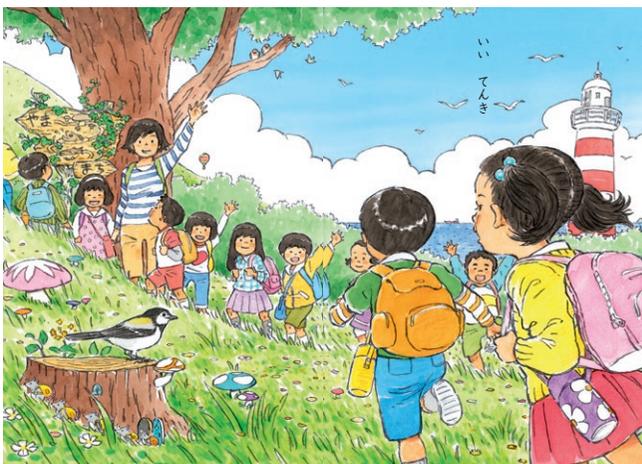
「こんなものみつけたよ」は、生活科の学校探検と合科的に扱えます。探検に行く前に、子どもたちとこのページを確認したいと思います。

— 一年生の各学期にある「つづけよう」の三セット教材は、新しい試みです。

「こえにだしてよもう」は、最初の詩の学びですので、自由に想像を膨らませる楽しさから始めたいと思います。水平線から太陽が昇る写真を示し、様子を想像するなどして、導入するとよいかもしれません。想像を膨らませると同時に、「ざぶん」ってどんなようすかな」な

— 教科書をご覧になって、いかがでしたか

一年生の第一教材「いいてんき」はページをめくるたびわくわくしますね。私が一年生の担任だったら、教科書を開く前に、校庭へ散歩に行きたいと思います。初めての場所を知った



1上「いいてんき」

ど、言葉にも着目させる。それから、想像した音や色を思いながら、ひとりひとり音読してみるとよいでしょう。

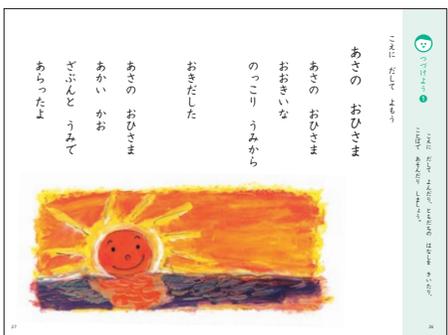
「ききたいな、ともだちのはなし」では、話したり聞いたりする目的を理解することの大切さを、感じ取ることができるといいですね。教師も、「次の時間は校庭での遊び方を勉強するのだけど、その後、自由に遊んでいいです。ですから、おとなりさんの好きな遊びを聞いておきましょう。」など、子どもたちが話す、聞く必然性がある状況を作る工夫をしたいと思います。

ファの学びができるように、ワークシートを用意するなどしたいですね。

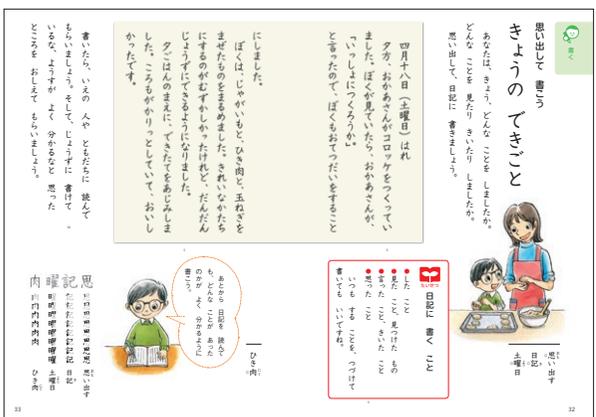
— 二年生の教材はいかがでしたか。

新しく位置づいた「きょうのできごと」(二上32ページ)はいいですね! 私の地域では、文集を作っているのですが、日々、書き溜めることができる単元があることがとてもうれしいです。事実を正確に書き記すこと、さらに、そのときに交わした会話や感じたことを入れると、その人らしさが出るということが、「たいせつ」として示されているのがいい。これからの書く力をつけていくのに大切な単元です。

「たんぼのちえ」(二上41ページ)は、生



1上p26-31「つづけよう①」



2上p32-33「きょうのできごと」

活科の栽培単元と結び付けて、自分が育てる野菜について、「ちえ」と「わけ」を調べてまとめる活動を取り入れたいですね。そこから、「かんさつ名人になろう」(二上52ページ)につなげる。記録を積み重ね、比較するという大切な力を育てる単元ですが、子どもによっては、モチベーションを保つのが難しい。「たんぼのちえ」「かんさつ名人になろう」の流れを生かし、学習を構想したいと思っています。

— ありがとうございます。